

岐阜大学教育学部附属中学校

1 学校の概要

所在地・電話番号	〒500-8482 所在地：岐阜県岐阜市加納大手町74 TEL：(058) 271-3507				
児童・生徒数 (平成16年3月1日現在)	学 年	生徒・児童数			学級数
		男	女	計	
	第1学年	81	84	165	5
	第2学年	86	82	168	5
	第3学年	87	77	164	5
	第4学年				
	第5学年				
	第6学年				
	計	254	243	497	15 (含養護学級)
教員数	27 名				
学校・地域の 教育的環境	本校は、岐阜大学教育学部の附属中学校として教職を目指す学生の育成を担いながら、各研究の発信地として中心的な役割の一端を担っている。 文部省開発学校指定 平成9年度～12年度 理科大好きスクール指定 平成15・16年度 次世代ITを活用した未来型教育研究開発事業 平成14年度～ 学校教育現場におけるオープンソースデスクトップ活用に向けた実証実験 平成16年度				

2 研究成果の概要

(1) 研究主題

人間教育に向けた自発的なICT活用への取り組み
～生徒の著作権に対する意識の高揚をはかる学習指導の工夫と環境づくり～

(2) 研究のねらい

私たちは、生徒が学校生活をより楽しくより豊かに協調的に過ごせることを願っている。そのため、学校と家庭との双方向の情報交流を深めていく手段の一つとして、生徒自身が日常生活の中でICTを活用して、自主的、創造的に活動できるようにしていきたいと考え、そのための環境づくりを行う。その中で、ICTで単に実用性や効率性だけを求めるのではなく、人と人との気持ちを大切にしたい。実質的なICT活用の有用性に気付かせていきたい。

また、次世代に対応できる人間の教育を目指して、ICTに関わるモラルの向上とともに、本校の生徒及び指導者の知的財産権（知的所有権）の知識を増やし、意識を高めることで、将来にわたり生徒が、自主的、創造的に生活ができるように、生きてはたらく思考力と判断力が身に付くことをねらいとする。

(3) 研究の概要

◇研修

- 1, 著作権に関わっての昨年度までの研修の成果と課題を職員全員で共通理解するとともに、岡山大会での他校の実践を紹介する。(7月・9月職員会)
- 2, 個人研修で、文化庁の著作権に関わるHPの閲覧をし研鑽を深める。
- 3, 岐阜県版「情報教育に関わるHP」の閲覧から、県の方針と現状を理解する。
- 4, 校内の指導部会で著作権の指導法について検討と実践のまとめをする。
(10月・2月)

◇実践

- 1, 総合的な学習の時間を活用したIT活用の実践とモラル・著作権に関わる指導
- 2, 各教科における著作権教育の実践と分析
- 3, 選択教科・総合的な学習における著作権教育の実践と分析

◇ I T 活用の環境づくり

- 1, 情報リテラシー項目の加除修正
- 2, デジタルカメラやプロジェクターなど学習環境の充実
- 3, 学習・情報指導部会での年間指導計画の作成
- 4, 文化祭劇の発表など、学校教育活動のリアルタイムな情報公開に向けての著作権に関わる配慮

(4) 研究の成果

今年度、研究を進めてきたいくつかの実践と成果について示す。

◇ 研修

- 1, 教職員に向けた、著作権教育に関わる意識と昨年度からの変容(別紙1)について調査し、啓発活動を行った。
- 2, 学習・情報指導部会にて具体的指導項目の洗い出しを行い、各教科の実践に活用した。

◇ 実践

- 1, 1年生の総合的な学習で、I C Tの活用法について授業を行った。また、情報のモラルや著作権についての学習も別日に行い、著作権の存在や著作権作成者の権利を守ることにについて意識の高揚を図った。
- 2, 各教科で著作権を意識した授業を行い、その成果と課題を分析した。
(別紙2, 指導事例)
- 3, 選択理科で、情報の発信者として著作権を有するものの立場から著作権について考える学習を行った。

◇ I C T 活用の環境づくり

- 1, 本校における情報リテラシーの育成に向けての指導項目を加除修正した。
(別紙3)
- 2, 学習・情報部会で、I C T活用に向けた年間指導計画について検討した。

<成果とまとめ>

著作権に関わる啓発活動を昨年度から継続的に行っていくことで、指導する立場である教師の認識も高くなり指導の必要性について考えるようになった。さらに、著作権教育を行って行くに当たっての留意点や問題点に気付き、よりよい指導法について模索していくことができた。また、教師が著作権を意識しながら、各教科や選択、総合的な学習を進めていくことで、著作権を守ることの意義と著作権者の気持ちに共感していくなど、生徒が身近な世界に関係する問題であるという意識をもつことができ、権利を守ろうという意識を高めていくことができた。

(別紙1) アンケート調査より

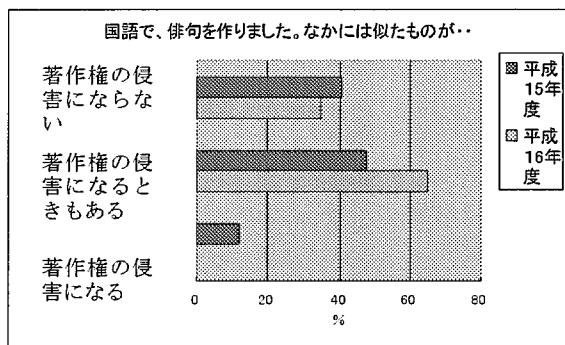


fig 1

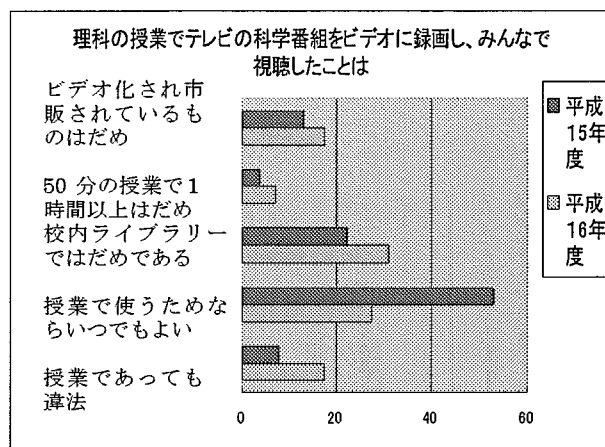


fig 2

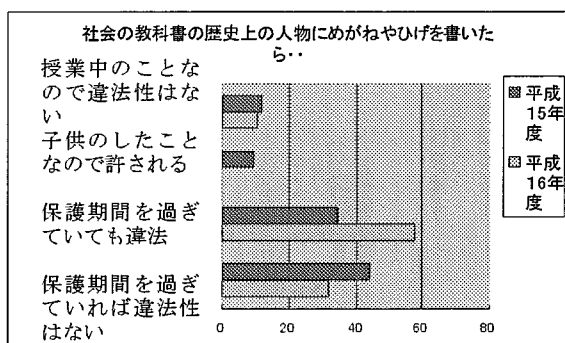


fig 3

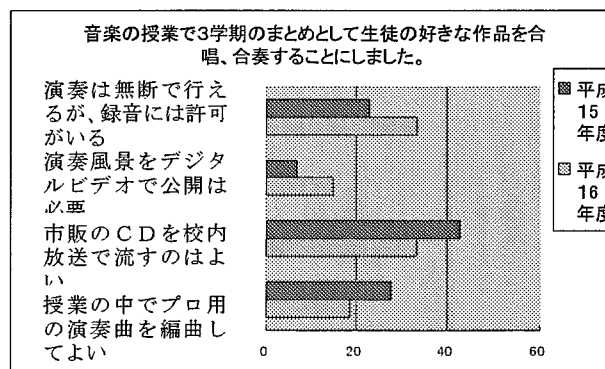


fig 4

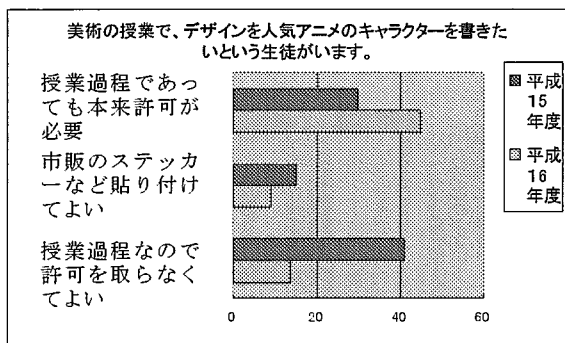


fig 5

指導していく中で感じたこと (記述) :

必要であるという認識はもつが、細かい事例について十分な知識がない。
かなり慎重に指導していく必要がある。
一つの事例を教えることで応用が利くものが少ない。
教えることと考えることの両面で考えていくとよい。

今後の改善点 (記述) :

著作権のみの学習より、使いながら指導していく方が定着が高い。
一言伝えていくだけでも、効果がある。より継続した指導になるようにしていくとよい。

調査対象 職員20名

調査日時 2月22日 (火)

<アンケートからの考察>

f i g 1より、「著作権の侵害になるときもある」が平成15年度より平成16年度の方が高い値を示した。また、「著作権の侵害にならない」の値がなくなっていることから、著作権を意識する割合が高くなり、またその理解度が高くなってきたことがうかがえる。

f i g 2より、「ビデオ化され市販されているものはだめ」「50分の授業で1時間以上はだめ」「校内ライブラリーではだめである」の3項目についていずれも昨年度より高い値を示した。このことから、各教科で実践されてきた著作権の紹介や著作権に関わる学習をしていく中で、正しい知識が身に付いていっている様子がうかがえた。

一方f i g 4・f i g 5の、「授業の中でプロ用の演奏曲を編曲してよい」や「授業過程なので許可を得なくてよい」といった項目では昨年度より低い値となり、十分に理解していないことについては、著作権の保護を意識するあまり、すべてのことに対して「してはならない」ととらえるなど、著作権の保護に過度に敏感になっている様子も見られる。

アンケート全体から、全般的に各知識については、昨年度より高い値が見られた。このことから職員の研修が成果を結び知識の向上に迎えたのではないかと考えられる。一方で、著作権の個々の事例が複雑であるためか、必要以上に意識していく姿も感じられ、今後の方向として、何を対象者（生徒・保護者）に伝えていくべきなのか、何を考えさせていくべきかを明らかにし、指導に当たる必要性を感じた。

「著作権教育研究協力校」に関する指導事例

別紙2

<国語科より>

実践1「情報収集及び情報活用にかかわって」

	学習の流れ	著作権に関わる指導
導入 課題	○作品例を示す。 よりよい作品を目指して、自分の主張と結びつけて、引用する事実を取捨選択しよう。	※「構成」「事実の引用の仕方」「叙述」「題名」の視点で豊かなものを示し、生徒の興味・関心・意欲を高める。
展開	○自分の主張に必要な情報をネット上で検索する。 ○作品構成表や構成カードを推敲する。	【留意点】 ・ 情報源を明示させる。 ・ 情報の確かさについて吟味させる。
終末	○「主張がより伝わりやすくなったか」の視点で自分の構成を振り返る。	・ 表現をコピー&ペーストしないようにさせる。
成果と課題 ○ネット上の情報についても、「一つの作品」という意識をもって見つめることができていた。 ▲事実だけでなく、安易に表現までも引用してしまう実態がある。		

実践2「情報収集及び情報活用にかかわって」 教材「マスメディアを通した現実世界」

	学習の流れ	著作権に関わる指導
導入 課題	○教材を読む。 マスメディアとのかかわりについての筆者の主張を読み取ろう。	※情報社会に生きる一人としての自覚をもたせ、教材に書かれていることと自分自身の経験を結びつけて考えるように指導する。
展開	○一人読みを行う。 ○読み取ったことを交流する。 ・「情報の受け手として」「情報の伝え手として」 ・情報を鵜呑みにしてはいけないという筆者の主張 ○「自分にとってマスメディアとは」を交流する。	※単に「受信」だけではなく、「発信」の立場になることも考慮させる。
終末	○「マスメディアをどのように活用していくのか」の視点で学習のまとめを書く。	
成果と課題 ○自分の生活を見つめ、情報社会に生きる一人としての自覚を高めることができた。 ▲氾濫した情報の中に潜む危険性についての認識はまだ弱い。		

実践3「作品の著作権の保護などにかかわって」 教材「作品創り」「鑑賞交流会」

	学習の流れ	著作権に関わる指導
導入 課題	○校内ホームページ上に自分の作品をアップする。 相手意識をもって、互いの作品のよさを学び合おう。	※イントラパケッツ及び、校内ネットワークの安定確認。
展開	○イントラパケッツの「作品紹介」を見て、興味をもった仲間の作品を鑑賞する。 ○鑑賞交流を通して仲間から学んだことを元にして、自分の作品を推敲する。	【留意点】 ・ 相手意識を大切にした紹介ページを作成させる。 ・ 仲間の作品を大切に取り扱い扱うように指導する。
終末	○「交流を通して仲間から学んだこと」の視点で学習のまとめを書く。	
成果と課題 ○イントラパケッツを利用して、限られた時間の中で有効に仲間の作品を鑑賞することができた。家庭からも見られるため、鑑賞としての幅が広がったように思う。 ○今後の「校内ライブラリー」としての活用も含め、発表の場が広がったため、今までよりも相手意識をもって、作品を創ろうとする姿が見られた。 ▲ネット上に保存する技術面の不足の問題や、誰もが勝手に触れるといったマナー上の問題についての指導をさらに徹底する必要があると感じた。		

<数学科より>

選択数学3年発展での実践例

	学習の流れ	著作権に関わる指導
導入 課題	○楽しく学ぶ数学プロジェクトのE-learningコンテンツを利用する。 どの単元に取り組むかを考え、自分の弱点を克服していこう。	
追究	○1時間ごとに問題が、基本A, B, 応用Aの3種類あることを確認する。 これらの問題は、楽しく学ぶ数学プロジェクトの参加メンバーの先生方が独自で開発したものであり、著作権が「楽しく学ぶ数学プロジェクト」に帰属していることを確認する。 Webを利用して、問題に取り組む。	複製・加工の利用範囲をホームページから確認する。 ★次の場面での利用は認められておりますので、ご活用ください。

発展	○一部の問題を改良して、オリジナル問題を作り上げていこう。 Linux のコンピュータを利用して、自分のオリジナル問題を作成し、お互いに解いて、学習内容の理解を深めていく。	(1) 学校教育法一条による学校内での教育利用 (教師による教材作成、児童生徒による学習成果物等への複製や加工しての取り込み) (2) 公立の教育センター等内での教員研修での利用 (教材作成実習等)
成果と課題 著作権を意識し、コンテンツによっては、複製や加工を許可している場合がある。それを理解することができた。 個人が加工した問題の著作権が、どこに帰属するのかを確認しきれない部分があった。		

<理科より>

3年「エネルギー」の学習から

	学習の流れ	著作権に関わる指導
導入 課題 追究 まとめ	○風力発電の写真を見る 新エネルギーにはどんなものがあるだろうか ○新エネルギーの種類とその利点、欠点を調べる。 図書やネット上で検索する。 ○新エネルギーの特徴をまとめ、自分の考えと共に、レポートにまとめる。	調べた内容や写真をそのまま写すことは著作権上違法であることを伝え、引用を載せることを伝える。
成果と課題 ○安易に、写真などをインターネットから写すのではなく、著作権を意識し、引用を載せて、活用することができた。		

<英語科より>

	学習の流れ	著作権に関わる指導
導入	○全国大会のスピーチ原稿集を見る。 その中の本校3年生の先輩のスピーチを読む。 ○さらに、自分が読んでみたいトピックのスピーチを刷り増ししてじっくり読む。	

課題	○ 感想を交流しあう。 ・ トピックが面白いから読んでみたくなる。 ・ 身近なことだけど、目のつけるところがかわっていて面白い。	
追究	・ それほど難しい英語は使っていない。 ○ 自分が書いてみたいと思うトピックを考えてみる。 ○ スピーチを書く時の注意を聞く。	
まとめ	弁論原稿は、生徒自身の意見・主張をまとめたものとし、他より3分の1以上引用した場合は、失格となる。他大会で用いた原稿は使用できない。(弁論大会要項より) ・ スピーチの原稿に引用してもいい限度 ・ 自分のスピーチなら何回でもいいの？ ○ 引用したい詩や、歌の歌詞も、量を考えながら、原稿を考える。一番大事なのは、格好いい言葉を言うのではなくて、自分の言いたいことを自分の言葉で言うことだということを実感しながら、スピーチの原稿制作にとりかかる。	○ スピーチの内容が3分の1以上、他からの引用であってはならないこと、他の大会で使った自分の原稿でも、もう一度読むことはできないということを確認する。それは、一度、大会で読んだスピーチの原稿の著作権は、大会主催者側にあるからであることを確認させる。
成果と課題		
○ スピーチの原稿を書く時に、「なぜ、真似をしてはいけないのか、なぜ、3分の1までだったらいいいのか。」という意識を考えていくことによって、自分の気持ちを主張することに意義があることをもう一度確認しあうことができた。 ○ たとえ、自分が作ったスピーチであっても、違う大会にいくつも同じ原稿で参加することができないという理由も理解して、著作権というものを意識することができた。		

<音楽科より>

	学習の流れ	著作権に関わる指導
導入 課題	○ 「越天楽」を鑑賞する。(CD) 日本の伝統的な音楽「雅楽」であることを知る。	
追究	日本の伝統音楽の素晴らしさを伝えよう。 ○ 雅楽を中心に、特に使われている楽器やその特徴についてネット上で検索し、パワーポイントにまとめる。日本の音楽の特徴についても、自分の思いをまとめる。	ネット上の内容や写真をそのまま写すことは著作権上違法であることを伝え、引用を載せることを伝える。
まとめ	○ グループ交流会をする。	

	ホームページにアップする。	
成果と課題 著作権を意識しながら、レポート作成ができた。 安易にネット上の内容や写真をそのまま写してしまいがちなので、常に意識化させていくようにする。		

<美術科より>

実践1「情報収集及び情報活用にかかわって（題材 架空美術展の企画）」

	学習の流れ	著作権に関わる指導
導入 課題	○作品例を示す。 様々な作家の作品を鑑賞し、興味関心のある作家・作品について架空展覧会のリーフレットを作ろう。	※「作品・色の構成」「事実の引用の仕方」「企画の主張点」の視点で豊かなものを示し、生徒の興味・関心・意欲を高める。
展開	○自分の主張に必要な情報をネット上で検索する。 ○架空の展覧会の主張点となる内容を記録収集する。	【留意点】
終末	○「選択した作家・作品の何を伝えるのか相手意識をもって伝わりやすいレイアウト・色面構成になっているか」の視点で自分の構成を振り返る。	・ 情報源を明示させる。 ・ 情報の確かさについて吟味させる。 ・ 表現をコピーペーストとしないようにさせる。
成果と課題 ○一人の作家について、多様なネット上の情報を幅広く見つけ、画集の記述と比較して事実確認をするなど、「正しい情報」という意識をもって学習を進めることができた。 ▲安易に表現までも引用してしまう実態がまだある。		
成果と課題 ○自分の生活を見つめ、情報社会に生きる一人としての自覚を高めることができた。 ▲氾濫した情報の中に潜む危険性についての認識はまだ弱いと考えられる。		

実践2「作品の著作権の保護などにかかわって」 教材「卒業画集の制作」「鑑賞」

	学習の流れ	著作権に関わる指導
導入 課題	○学校の財産として、歴代卒業生の「画集」があることを紹介する。 先輩方が、卒業をむかえ残していった作品に込められた思いをモチーフの構成から感じ取ろう。	※イラスト・漫画にあるキャラクターや背景の処理について、著作権フリー素材のものや、侵害に値するものがあることを指導する。
展開		

終末	○卒業生の「画集」を見て、興味をもった先輩の作品を鑑賞する。 ○鑑賞交流を通して仲間から学んだことを元にして、自分の作品について願いをもつ。 ○「交流を通して先輩の作品や仲間の意見から学んだこと」をもとに、願いを象徴するモチーフを決定する。	【留意点】 ・印刷製本し、全員の財産になる作品づくりであることから、先輩の作品を大切に取り扱い扱うように指導する。
----	---	---

成果と意識

○学校で独自に印刷製本した作品集を利用して、限られた時間の中で有効に仲間の作品を鑑賞することができた。30年以上に渡る作品があるため、鑑賞する作品や願いの幅を広げることができた。

○学校の財産として残る「画集」であることから、今までよりも相手意識をもって、自己の願いを込めた作品を創ろう、残そうとする姿が見られた。

※誰もが勝手に触れることができることや、落書きといったマナー上の問題についての指導を徹底する必要がある。

<技術科より>

	学習の流れ	著作権に関わる指導
導入 課題	○世界各地での食事についての関心を持つ。	
追究	世界の食卓拝見をし、食文化について考えよう。 ○追究したい国を選ぶ。 ○各国の食事情や食卓の様子、特徴や豆知識を調べる。 図書やネット上で検索する。 ○日本の食卓について取材し、写真などをとる。	・調べた内容や写真をそのまま写すことは著作権上違法であることを伝え、引用を載せることを伝える。 ・取材した写真を扱うことに対し、権利者の立場を守ることについて指導する。
まとめ	○世界の食卓と日本の食卓を比べるなどして、世界の各国の食の特徴をまとめ、交流し合う。	

成果と課題

○著作権を意識し、情報を公開していくときの一つの方法を、実践を通して学ぶことができた。

●学校のホームページにまとめるなどすることで、個人の作品に著作権が生ずることへの意識を高められるといい。

<特殊教育より>

学習のねらい	学習活動	著作権に関わる指導
計画・準備	・作業着を身につけて準備をする。	・校内作品展で、イラストメモを販売す

・作業の準備をする。 ・作業の注意を確認する。 ・本時の作業内容を確認する。	・作業長の後に続いて作業の注意事項を読み、確認する。 ・展示販売をする前に、他人がかいた絵や写真を印刷して販売することについて考える。(著作権) ・一人一人の作業の内容を確認する。 ・各々の作業に必要なものを準備する。	・自分の作品が他人に印刷されて売られたら、どう思うか考える。 ・他人がかいたものを勝手に印刷して売することは、いけないことであることを伝える。 ・養護学級で印刷している「書」や「絵」は、昔、附属中にみえた先生がかかれたもので、校内作品展などで展示販売してもよいという了解をとっていることを伝える。
作業 ・確認しながら各々の作業を進める。 片付け・反省 ・自分の頑張りを振り返る。	イラストメモの袋詰と値札つけを丁寧に行おう。 (袋詰作業) ・イラストメモの向きを確認して、袋詰作業を丁寧に行う。 (値札付け) ・見本を参考にしながら、イラストメモの裏面の右下に値札を貼る。 ・作業の後片付けと清掃をする。自分の役割を果たしたら、他の人の仕事を手伝う。 ・本時行った作業の成果を確認する。本時の反省（主に頑張ったこと）を話す。	

(成果と課題)

○ 「自分の作品が他人に印刷されて売られたら、どう思う。」の質問に対して、「勝手に使われたらむなしい。(3年Kさん)」、「売っていいと言っていないのに、売られたらいや。(3年Aさん)」という感想があった。おそらく著作権という言葉や意味を知らない生徒たちであるが、自分の作品を使われた権利者の立場にたって、その心情を考えることができた。

△上記のような質問では、著作権について考えることが難しい生徒がいる。これから一人一人の生徒(養護学級)の実態に合った著作権教育のあり方を考えていかなければならない。

(別紙3) コンピュータ教育における情報リテラシーの項目

	素材	目標	学習の流れ		媒体
	個人IDとパスワード	個人IDとパスワードの意味を知り、ネットワーク活用の意欲と責任をもつ。	個人IDの配布、パスワードの設定、ログイン・ログアウトのしかた、パスワードの管理の大切さを知る。ネット犯罪(なりすまし等)の事例を知る。	学級活動	WINDO WS, TR -Mail
	共有フォルダ、共有プリンタ	共有フォルダ・共有プリンタの仕組みを知り、使い方への配慮をする。	ネットワーク上での共有フォルダの意味を知り、他人と一緒に使うという視点から、その使い方について、有効に使ったり、配慮事項について考える。	技術科	WINDO WS
○	ネットワークの約束	誤った情報や不要な情報を送受信したり、情報を伝達・発信することへの責任や相手への配慮について理解することができる。	webやメールにおける資料収集で、気を付けることを考える。特に情報発信者の信頼性と情報の正確性については、図書資料などとの比較において考える。	総合学習	WINDO WS, TR -Mail
	携帯電話、フリーメールの使い方	携帯電話でのメールなどの使い方に対する配慮すべき内容について考える。	メールを使っていて困ったことや嫌だったことを参考にしながら、ネットワークの使い方について考える。	総合学習	WINDO WS, TR -Mail
○	著作権・知的所有権	著作権や知的所有権について知り、その権利を脅かさないために配慮できることを知る。また、無断借用にならないための手続きを学ぶ。	優れたソフト開発者などの発明に敬意をもちながら、著作権や知的所有権について知り、その権利を脅かさないために配慮できることを話し合う。	各教科総合	WINDO WS, TR -Mail, イントラバケッツ
○	肖像権	肖像権について知り、その権利が脅かされる例について配慮できる。	肖像権が脅かされる例を出し合い、その方法とその結果怒る可能性、危険性について考える。	各教科総合	WINDO WS, TR -Mail, イントラバケッツ
	メーリングリストやグループメール	メーリングリストやグループメールの意味を知り、正しい使い方と態度を養う。	便利さと利用の際の注意など、過去の事例を挙げながら考えていく。	総合学習	TR-Mail
	ウイルス	ウイルスの症状や伝染の仕方を知り、そのときの配慮を学ぶ。	ハッカーやハイテク犯罪の事例から、実際のウイルスの症状を学び、その伝染の仕方について対処の仕方を考える。	技術科	TR-Mail
○	多様な情報	メディアからの上を鵜呑みにせず、多くの情報と照らし合わせ、正しい情報を得ようとする態度を身に付ける。	天気予報を例にして、いくつかのメディアを比べ情報が違っている理由を考える。引用文献や参考文献の意味について考え、情報発信している人の情報の入手の仕方を学ぶ。	総合学習	WINDO WS, TR -Mail

有害情報へのアクセス	有害情報に接する可能性について知り、適切でない情報を入手したときの基本的な態度について学ぶ。	有害情報の例を出し合い、その理由について話し合う。そのときどうするかについて考えさせる。	総合学習	WINDO WS, WW W
いじめ・誹謗・中傷のe-mail	文章だけで伝えることの難しさを知り、受信者に大して思いやりのある態度でコミュニケーションすることの大切さを知る。	誤解の生じるメールの例と誹謗中傷の例を見ながら、意見を出し合う。また、人の気持ちを大切にするための方法について話し合う。	道徳	WINDO WS, TR -Mail
掲示板(匿名性)	掲示板についての知識を知り、情報の信頼性や危険性について学ぶ。	実際の掲示板の様子を知り、その匿名性と内容の信頼性に伴う危険性などについて話し合い、その対処の仕方について学ぶ。	道徳	WWW, TR-Mail
実体験の大切さ	間接体験と直接体験での情報の確認の大切さや感動などの情意面の高揚を図る。	感動は、直接体験や間接体験による物が大切であるといった体験談を話し合い、メディアの活用の仕方を考える。	各教科	
なりすまし	なりすましの危険性を学び、そのための自己責任と対処法を身に付ける。	自分でない人が自分のIDを使ってアクセスしたときの危険性について話し合い、そのためのIDの管理方法について学ぶ。	学級活動	WWW, TR-Mail, キッズウェア, 電子会議
不正アクセス	IPアドレスについての簡単な知識から、ネットワークの特定性と匿名性について学び、ただしいネットワーク活用について知る。	不正アクセス犯罪の記事を読み、その感想を出し合う。ネットワークに参加するときの態度を話し合う。	技術科	WINDO WS, WW, WW,
ネット商品の購入	ネット販売は、個人の責任で行うことを知り、そのためのセキュリティや個人情報発信に対する配慮が必要であることを知る。	ネット商品の利用の注意事項から気づいたことを出し合う。クレジットカードの番号や住所電話番号などの情報の発信について考える。	学級活動	WWW, TR-Mail